



日本陸連アスレティック・アワード2009受賞者

1. アスリート・オブ・ザ・イヤー（1名）

「2009年においてその活躍が最も顕著であった競技者」

○村上 幸史（スズキ）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 男子やり投 3位

オリンピック及び世界陸上において、やり投で初のメダリスト、且つ、投てき種目で室伏広治選手に次ぐ二人目のメダリスト。

2. 優秀選手賞（複数名）

「2009年において優秀な成績をおさめた競技者」

①尾崎 好美（第一生命）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 女子マラソン 2位

北京オリンピックで入賞を逃した、マラソン種目の救世主で、自身マラソン3度目にして、世界陸上で銀メダリストとなる。

②淵瀬 真寿美（大塚製薬）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 女子20km競歩 7位

オリンピック及び世界陸上において、女子競歩種目で初入賞。

2009年1月の日本選手権競歩・女子20km競歩で日本記録樹立。

③男子4×100mRメンバー

江里口 匡史（早稲田大学）、塚原 直貴（富士通）、高平 慎士（富士通）、藤光 謙司（セーレン）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 男子4×100mR 4位

世界陸上で5大会連続入賞。

④中村 友梨香（天満屋）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 女子10000m 7位

今回の世界陸上で日本選手最初の入賞を果たし、選手団の士気を高めた。

女子トラック種目での入賞は、99年セベリア大会の10000m4位・弘山晴美選手以来の10年ぶり。

⑤佐藤 敦之（中国電力）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 男子マラソン 6位

北京オリンピック・男子マラソンの屈辱から這い上がり、近年、高速化する男子マラソンで、ケニア、エチオピアのアフリカ勢に伍して入賞を果たした。

日本はこの種目で、世界陸上で6大会連続入賞。

⑥加納 由理（セカンドウィンドAC）

第12回IAAF世界陸上競技選手権ベルリン大会 女子マラソン 7位

世界陸上初出場ながら、女子マラソンの日本代表の重責を全うし、入賞を果たした。

3. 新人賞（3名：本連盟1名、記者クラブ2名）

「2009年の活躍が顕著であり、その将来が期待される競技者」

①本連盟選出の競技者 1名

戸邊 直人（専大松戸高校）／1992年3月31日生

走高跳で20年ぶりの高校記録（2m23）を樹立。高校生にして東アジア大会の日本代表選手。

②東京運動記者クラブ選出の競技者 男女各1名

男子 江里口 匡史（早稲田大学）／1988年12月17日生

女子 淵瀬 真寿美（大塚製薬）／1986年9月2日生

4. 特別賞（複数名）

「陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体」

○財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

第1回大会から25年に亘り、全国小学生陸上競技交流大会のスポンサーとして、陸上競技の底辺拡大と普及に大きく貢献した。

以 上